



光寿無量
年頭にあたり
御挨拶を申し上げます
今年もお念仏とともに
一日いちにちを
大切に過ごしましょう

法話「たもつ」

「保」は
赤ちゃんを抱いて守る姿
花田 照夫布教師
福岡県長明寺住職

あなたでしよ!

ご門徒宅の月参りなどでよくお勤めする「阿弥陀経」の中には、「執持名号」というご文が出てまいります。「名号を執り持つ」といふ、少々専門的な言葉ですが、お経の中で「執持名号、若一日、若二日、若三日、若四日、若五日、若六日、若七日、一心不乱」と印象深いフレーズが続くところですので、「ああ、あそこね」と思われる方も多いのではないでしうか。

この「名号を執り持つ」を親鸞聖人は、「南無阿弥陀仏」を「信じ称える」事と示されました。普段私達は、「お念仏を称える」と表現していますが、南無阿弥陀仏を「たもつ」という表現も、なんだか深みがあって素敵ですね。さて、今から9年前の早朝の事です。僧侶の勉強会で、「執持名号」がテーマになるという事で、私は「阿弥陀経」の関連仏書を自室で開いていました。その時です。朝食を作っているはずの妻が、突然、部屋に入ってきました。ずいぶん怒りながら。「あなたでしよ! 昨日の晩、炊

飯器の電源切ったのは!

どうやら前日の夕食の時、私は炊飯器を誤って操作し、電源を切ってしまったようです。怒り心頭の妻に、「あのね、確かに電源を切ってしまったかもしれないけど、わざとでもなければ、悪気があったわけでもないよ」と言い返せなかった私は、「じゃあ、どうすればよかったの?」と小声でたずねました。

すると妻は、「保温よ、保温! 保温ボタンがあるでしよ!」と言って、そのまま部屋から出ていきました。

一人になった部屋で「ふうっ」とため息をつく私。仕方がないので再度、仏書を開くと、そこには「保つ」の文字がありました。

「あれ!」衝撃とともに、妻のセリフがそこに重なりました。「保温: 温もりを保つ。考えてみれば、普段使っている「たもつ」は、「持つ」ではなく、保温の「保」の字だな!

「保」の字に興味を覚えた私は、さっそく書棚から漢和辞典を取り出して調べてみました。すると辞書には、「保」の「呆」とは「布に包まれた赤子」を意味するとありました。それを「人」が抱きかかえて「保つ」。

私は、大切にくるまれたわが子を抱きかかえる「親の姿」を想像し、大きな感動を覚えました。なぜなら、それは私たちが頂く阿弥陀様の世界そのものだからです。

ザルと水

親鸞聖人は、阿弥陀様のお慈悲を「摂取不捨」と喜ばれました。煩惱具足の私を見抜き、摂め取り抱きしめ、決して捨てる事のない、それが阿弥陀様のお慈悲の世界です。そして、このお慈悲はどこか遠くにあるのではなく、「今、ここ、私」の上に南無阿弥陀仏となつて働いて下さっているのです。この世界を妙好人の浅原才市さんは、

目にも見えぬ慈悲が言葉にあらわれて南無阿弥陀仏と声でしられると味わっていかれました。

「お念仏」は私がする「行為」というよりも、阿弥陀様が私を抱きしめて下さっている「すがた」なのです。この南無阿弥陀仏は、阿弥陀様のお慈悲そのものです。ザルで水を「たもつ」事はできませんが、水の中にザルをつけるとザルの中にも水がたもたれる姿となつて現れます。それは、水によつてザルが保たれるからです。お慈悲の水に保たれているザル、それがお念仏を称える私の姿なのです。

浄土真宗は、自らの口からこぼれる「ナンマンダブツ」に、自らが出遇わさせていたたく、喜びの世界です。私を「あなたは大事な一人子です」「そのまま来い、このまま救う」と抱きしめて下さる阿弥陀様のお慈悲を、自ら称える

南無阿弥陀仏のうちに聞き、味わい、受け取らせていただく。それが、阿弥陀様を「親様」としていただく、浄土真宗の日々の生活です。

あれごらん
親に抱かれて寝る赤子
落ちる落ちぬの心配はなし
稲垣瑞剣範

新型コロナウイルスの中、大変な事も多いですが、共々に聴聞生活・念仏生活させていただきましよう。
(本願寺新報 3258号より)

住職より

令和五年は、親鸞聖人がお誕生されて850年の年になります。また六年は、浄土真宗が始まって800年の年になります。

この二つを祝って四月から本山で記念法要が開かれ、芝組は、四月十一日午後の法要に団体で参拝致します。

コロナ禍も四年目になりました。様々な規制が緩和・解除され、伝染病に関して、あと少して元の生活に戻るのではと希望を持って過ごしています。

世界の情勢に対しても不安でいっぱいですが、二〇世紀前半、大戦前の状況に似通った雰囲気になっていきます。独裁政権への宥和(ゆうわ)政策の結果は、歴史が証明しているのに、変わっていかない。焦燥感は、募るばかりですが、私達は、傍観しているしかないのでしょうか。

平和な世の中を切に望みます。

教誓寺一年の行事

今年一年の教誓寺の行事です。
元日・春・秋の彼岸会、盂蘭盆会、報恩講にはそれぞれ法要を勤修いたします。
皆様お参り下さい。

- 元日 元旦会
- 三月十八〜二十四 春彼岸
- 三月二一日(春分の日) 彼岸会
- 七月一三〜一六日 お盆
- 七月十日 盂蘭盆会
- 九月二十〜二六日 秋彼岸
- 九月二三(秋分の日) 彼岸会
- 十月二九日(第5日曜) 報恩講

新年のご参詣

新しい年を迎えたら、お詣りに参りましょう。
元旦会法要
一月一日

午前十時三〇分より
お寺は、準備万端整えて、元日から皆様のお参りを歓迎致します。

坊守もお汁粉を拵えて、皆様に召し上がって頂くのを楽しみにしております。

お子様には、お年玉のお菓子を用意しております。

皆様でお参り下さい。

*前坊守(92)手編みの靴下を皆様に差し上げます

12月25日(日)から配り始めましたので、お参りの時は、是非お声をおかけ下さい。

年回忌法要

御法事は亡き人を縁として、いま生かされている生命の尊さをかみしめつつ、故人も我も共にすくってくださる阿弥陀如来の智慧と慈悲に手を合わせ、そ

の仏恩にご報謝のおつとめとして行います。

今年(令和五年)の年回忌

- 一周忌 令和四年 二〇二二年
- 三回忌 令和三年 二〇二一年
- 七回忌 平成二九年 二〇一七年
- 十三回忌 平成二三年 二〇一一年
- 十七回忌 平成十九年 二〇〇七年
- 二二回忌 平成十三年 二〇〇一年
- 二七回忌 平成九年 一九九七年
- 三三回忌 平成三年 一九九一年
- 三七回忌 昭和六二年 一九八七年
- 五十回忌 昭和四九年 一九七四年
- 七十回忌 昭和二九年 一九五四年
- 百回忌 大正十三年 一九二四年

各ご施主様宛に年回忌法要のご案内をしています。

すでに繰り上げておつとめされた方にもご案内が届きます事をご容赦下さい。

また、内容に誤り等があった場合は、ご遠慮なくご指摘下さい。

ご参詣の日時につきましては、お寺にご相談下さい。

浄土真宗本願寺派 圓生山 教誓寺
108-0073
東京都港区三田 一-十二-十一
〇三(三四五)二三九
kyousei.ji@is4.so-net.ne.jp